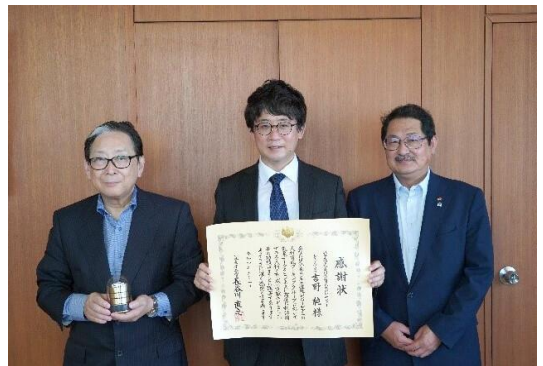


研究



- ・ 岐阜大学工学部 木下幸治 准教授 及び 木村友亮 助教が科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞
- ・ 岐阜大学教員の研究を動画で紹介する「GU Research」を開始
- ・ 工学部 吉野 純 教授が気象庁長官表彰を受賞
- ・ 平島一輝特任助教が「マンスフィールド-PhRMA研究者プログラム」に選出
- ・ 本学工学部リム リーフ教授が日本分析化学会女性 Analyst 賞を受賞
- ・ 文部科学省補助金事業 令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）に採択
- ・ 大学生のメンタルヘルスを可視化するシステムを開発
- ・ One Medicineトランスレーショナルリサーチセンター開所式を開催
- ・ 環境再生保全機構「環境研究総合推進費」令和5年度新規課題に採択



MAKE NEW STANDARDS.

東海国立
大学機構



岐阜大学工学部 木下幸治 准教授 及び 木村友亮 助教が 科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞

【概要】

岐阜大学工学部社会基盤工学科の木下幸治 准教授と同学部電気電子・情報工学科の木村友亮 助教が、令和4年度科学技術分野の文部科学大臣表彰の科学技術賞（技術部門）と若手科学者賞をそれぞれ受賞しました。

科学技術賞（技術部門）は、中小企業、地場産業等において、地域経済の発展に寄与する優れた技術を開発した者に贈られる賞です。今回の受賞対象となった木下准教授の技術開発テーマは、「経済的で環境に優しい鋼構造物の疲労き裂予防保全工法の開発」であり、ヤマダイインフラテクノス株式会社と共同で開発しました。

若手科学者賞は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者個人に贈られる賞です。今回の受賞対象となった木村助教の研究テーマは、「CO2レーザー加熱技術の地球惑星科学への応用に関する研究」です。

令和4年4月27日（水）には、今回の受賞に関する吉田学長への報告会が行われ、社会問題の解決に取り組む予防安全対策や、独自の手法で特徴的な性質を示す新しい物質の創成に成功した事例など、受賞したそれぞれの研究内容について、木下幸治 准教授及び木村友亮 助教から吉田学長へと直接伝えられました。

また、木下幸治 准教授は、「ヤマダイインフラテクノス様と共同で、経済的で合理的な手法の開発に成功したことが今回の受賞につながった」と報告し、木村友亮 助教は、「誰もやったことがないことをやるんだという強い意気込みと共に、熱意を持って取り組んできたことが今回の成果と表彰に結び付いた」と報告しました。吉田学長は、「今回のお二人の受賞は、世界に伍する研究であることが認められたものであり、これを誇りに思っている。また、その研究を更に発展させ、産学官と連携することで地域中核大学として今後ますます社会に貢献していくことを期待しています」と激励しました。



受賞報告の様子(木下幸治 准教授)



受賞報告の様子(木村友亮 助教)



集合写真

岐阜大学工学部 木下幸治 准教授 及び 木村友亮 助教が
科学技術分野の文部科学大臣表彰を受賞

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/5/8	岐阜	岐阜大 2 教員に大臣表彰 科学技術分野で優れた研究成果 ～ 工学部社会基盤工学科 木下幸治 准教授, 電気電子・情報工学科 木村友亮 助教 ～

【テレビ等放送】

放送日等	番組名	内容
2022/5/9	ZIP-FM 6:00～9:00 「MORNING BOOOOOOST」	岐阜大 2 教員に大臣表彰科学技術分野で優れた研究成果 工学部社会基盤工学科 木下幸治 准教授 電気電子・情報工学科 木村友亮 助教

岐阜大学教員の研究を動画で紹介する 「GU Research」を開始

【概要】

令和4年5月、本学教員の研究内容を動画で紹介する“GU Research”を開始しました。

「GU Research」では岐阜大学での研究・勉学の魅力を皆さんにお伝えするために、本学の教員が自身の研究内容を分かりやすく解説します。どの動画も15分～20分程度と気軽に視聴できるものとなっております。

第1弾は応用生物科学部 柳瀬笑子教授の「お茶を化学する」、応用生物科学部 小山博之教授の「酸性の土でも生育する植物品種改良の話」と社会システム経営学環 三井栄教授の「観光資源をかんがえる―乗鞍岳における社会実験を事例に一」です。

是非ご覧ください。



お茶には健康に良いとされるポリフェノール（カテキン類）が含まれていますが、紅茶やウーロン茶に加工する過程で大きく変化することが知られています。その変化について有機化学的な視点から分子レベルで明らかにすることをめざして行っている研究の一端をご紹介します。



酸性土壌耐性作物の作出に関する研究紹介。東南アジア、アフリカに広く分布する酸性土壌は、干ばつ害の原因にもなる、農業におけるもっとも深刻な環境ストレスです。これを遺伝子組換え育種などで改良することは、土壌改良肥料の節約にもつながり、農業の脱炭素化に大きく貢献すると考えられています。



岐阜県高山市と長野県松本市にまたがる乗鞍岳で昭和48年に開通した日本一の高所を走る山岳道路「乗鞍スカイライン」では、自然保全のため平成15年に車両乗入規制が実施されました。それ以降、自然環境が改善された反面、観光客が減少し続ける中、増加傾向にある自転車来訪者に注目し、観光振興を目的に実施している社会実験「乗鞍だけガチャ」を紹介します。

工学部 吉野 純 教授が気象庁長官表彰を受賞

【概要】

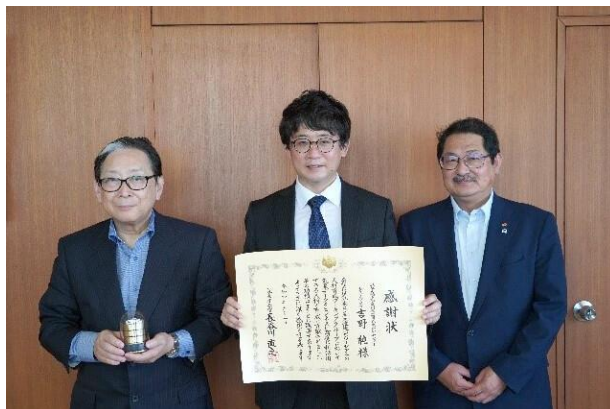
令和4年6月1日（水）に行われました第147回気象記念日式典（主催：気象庁）において、本学工学部 吉野 純 教授が気象庁長官表彰（一般表彰）を受賞しました。

このたびの受賞では、吉野教授が平成29年発足時より携わる、気象データを活用した新ビジネス創出を目的とする組織「気象ビジネス推進コンソーシアム」において、気象データをビジネスに利活用できる人材の育成に貢献したことが高く評価されました。

6月30日（木）には、吉野教授が学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。吉野教授は「教育は大学が得意とするところであり、専門的な知見を活かして地域で活躍する気象データアナリストを育成していきたい」と話しました。吉田学長からは、「気象データは脱炭素やSDGsなど様々な取り組みに応用することが期待されており、気象に関する人材育成のパイオニアとしてリードしてほしい」と激励しました。



受賞報告の様子



記念写真

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2022/7/1	中日	気象庁長官表彰 受賞 気象データ活用の人材育成に貢献 ～ 応用気象研究センター 吉野純 センター長 ～
2022/7/5	岐阜	吉野教授 長官表彰 「気象データアナリスト」養成に貢献 ～ 応用気象研究センター長 吉野純 教授 ～
2022/7/19	読売	気象データ人材育成 尽力 商業活用へ 岐阜大・吉野教授 表彰 ～ 応用気象研究センター 吉野純 センター長 ～

平島一輝特任助教が「マンスフィールド－PhRMA研究者プログラム」に選出

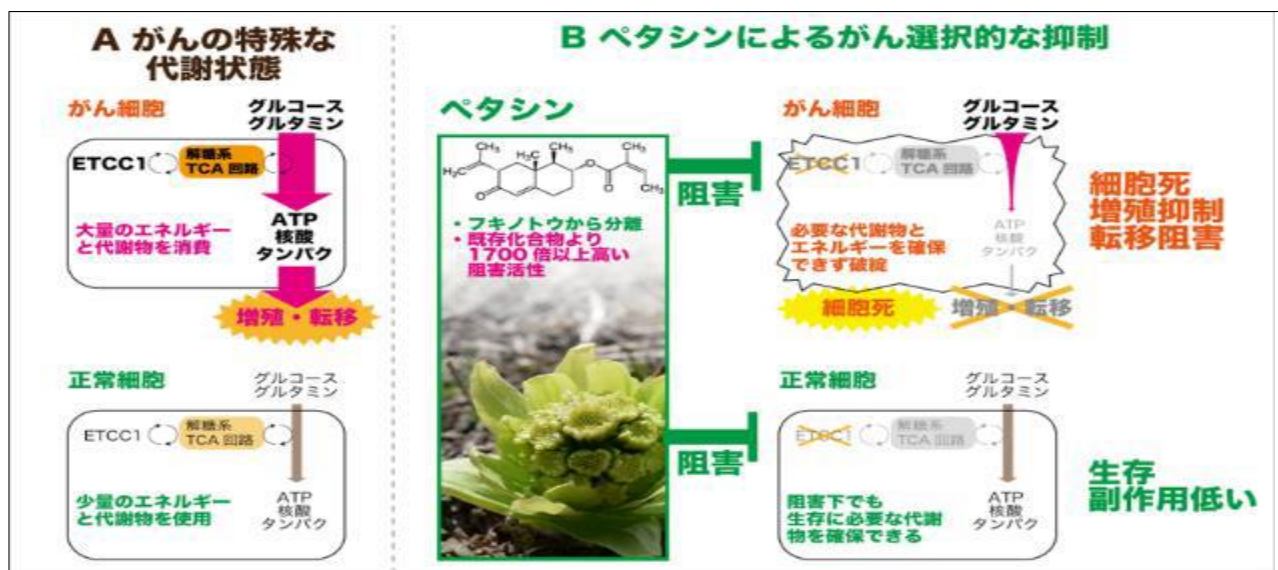
【概要】

本学高等研究院・若手育成プログラム G-Y L C (Young Leaders Cultivation) の平島一輝特任助教が、米国マンスフィールド財団が主催する2022年度の第8期「マンスフィールド－PhRMAプログラム」に、全国の医師、研究者8名のスカラーのうち1人として選出されました。本学からの参加者は初めてとなります。

本プログラムは2013年初頭に発足し、米国研究製薬工業協会（PhRMA）の支援を受けて国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）の協賛のもと実施しています。医薬に携わる日本の若手研究者を米国に派遣し、米国の創薬研究・開発、政策・規制について研修します。創薬における基礎研究から臨床開発、製品化に至る過程においてどのように各機関が連携しているか理解を深め、研修で得たネットワーク・知見・経験は、所属機関内やサイエンスコミュニティ内の共同研究の推進へ活用し、日本の研究開発政策改善・シーズ創出に貢献する人材として活動することが期待されます。

英語でのエッセイ、面接を経て選出された8名は9月に2週間にわたってワシントンDC、フィラデルフィアおよびボストンにおいて米国連邦政府医療政策関連部署および関連機関、シンクタンク、民間製薬会社、大学を訪問し、米国におけるトランスレーショナル・リサーチ促進のための医療エコシステムについて理解を深め、今後の「日本におけるトランスレーショナル・リサーチの促進」「新薬や新治療法開発支援」という共通の目的意識を有する関係者間で、長期的かつプロフェッショナルなネットワークを構築することとなります。

現在、平島特任助教は日本原産植物であるフキノトウに含まれるペタシンから副作用の少ない抗がん・転移阻害剤の開発研究を行っています。



本学工学部リム リーフ教授が 日本分析化学会女性 Analyst 賞を受賞

【概要】

本学 工学部リム リーフ教授が日本分析化学会女性 Analyst 賞を受賞しました。

女性 Analyst 賞は分析化学に関する優秀な業績をあげた女性研究者、女性技術開発者あるいは女性企業経営者に贈られる賞です。このたびの受賞では、キャピラリー液体クロマトグラフィーの高性能化に関する研究が評価されました。

令和4年9月22日（木）には、リム教授が学長室を訪問し、受賞の報告を行いました。リム教授は「来日22年間、数えきれないほどたくさんの方々との出会い、多くのことを教わった。この栄誉ある賞を受賞できたのは、もちろん、私個人の力ではなく、恩師や先生方のご指導、支えてくれた同僚や学生の皆様のおかげだと思ふ。今後は、自分なりに努力して社会に貢献できるよう精進していきたい」と話しました。

吉田学長は、「この受賞で弾みをつけて研究を進めていってほしい」と激励しました。



受賞報告の様子



記念撮影

文部科学省補助金事業 令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）に採択

【概要】

本学は、文部科学省補助金事業「令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）」の支援メニュー①"地域"や"特定分野"の中核として強み・特色ある教育研究活動に取り組む国立大学として申請し、採択されました。

国立大学経営改革促進事業は、"学内における資源再配分"、"全学的な組織改革"、様々なステークホルダーとの連携・協働を通じた"外部からの資金獲得増"を柱とした学長のリーダーシップに基づく優れた経営改革構想と、ミッションを踏まえた強み・特色ある教育研究活動を通じた社会的インパクトの創出を先導する取組に対して集中的・重点的支援を行うものです。

今回採択された下記事業構想では、生命科学分野に大学のリソースを集中投下し、医薬薬一体型創薬研究体制を整備することで研究力を強化するとともに、創薬リサーチマネジメント人材を育成して、地域ライフサイエンス拠点の形成に貢献することを目指します。さらに、若手研究者にとって魅力ある研究の場を整備することによって外部資金獲得増の好循環を作り出し、大学経営基盤の強靱化を目指します。

【採択事業概要】

- 【事業名】 研究体制改革による大学経営基盤好循環の形成
～ 生命科学分野へのリソース集中を端緒とする研究力強化～
- 【事業予定期間】 令和4年度～令和7年度



大学生のメンタルヘルスを可視化するシステムを開発 - 学生にも即時に結果をフィードバック -

【概要】

岐阜大学保健管理センターの堀田亮准教授は、国際標準の心理指標であるCCAPS日本語版を用いて、大学生のメンタルヘルスを可視化するWeb回答システム「CCAPS-iQAS」を開発しました。

新型コロナウイルス感染症の拡大は未だ終息に至らず、大学生のメンタルヘルスへの影響は大きな社会問題となっています。本システムは、回答した学生に対して自動かつ即時に結果がフィードバックされ、相談窓口の連絡先や、結果に応じた相談を促すメッセージも表示される機能を搭載しています（図1）。

このような機能は他に類を見ないので、その研究成果と意義が高く評価され、日本学生相談学会発行の学生相談研究に掲載されました。本システムは岐阜大学をはじめ、複数の大学ですでに実装されています。

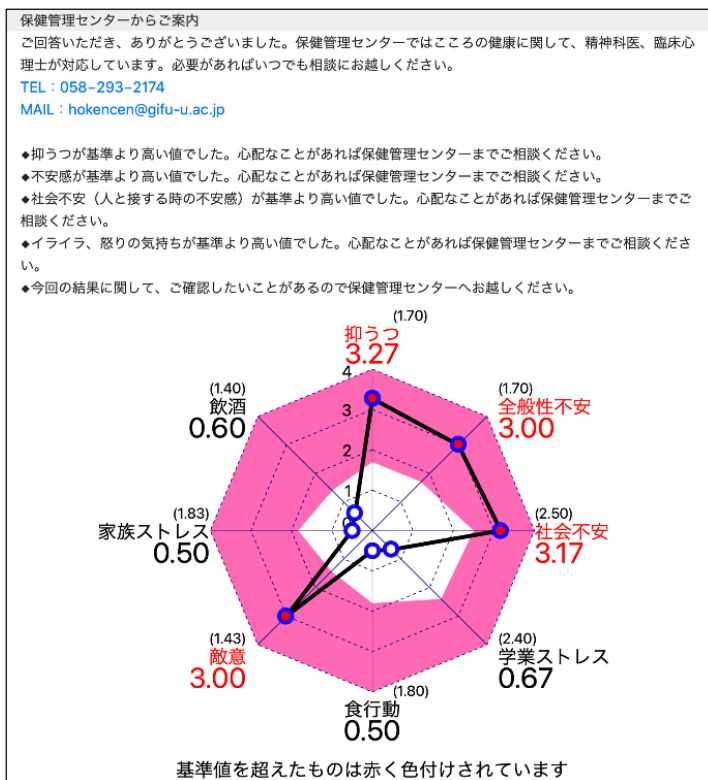


図1 「CCAPS-iQAS」の回答結果画面

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/1/12	日刊工業	学生のメンタルヘルス見える化 岐阜大がシステム～保健管理センター 堀田亮 准教授～
2023/1/26	産経	学生の心の健康 可視化 コロナ禍 悩みをサポートシステム開発 ビッグデータ構築も～保健管理センター 堀田亮 准教授～

One Medicineトランスレーショナルリサーチセンター 開所式を開催

【概要】

令和5年1月17日（火）に「One Medicineトランスレーショナルリサーチセンター開所式」を開催しました。本センターは「ヒトと動物の疾病は共通」、すなわち「One Medicine」という新たな視点から創薬シーズの開発・育成を行う研究拠点として開所されました。

センターは、本学の現状組織の一部を再編し、名古屋大学や岐阜薬科大学とも連携し、医学、獣医学、薬学、工学等の研究者が、分野横断的かつ施設横断的に有機的につながり、ヒトと伴侶動物の治療薬や予防薬、診断薬のシーズの開発・育成を強力に進めます。

開所式は、松尾東海国立大学機構長をはじめ、大学関係者、研究者、学生、企業関係者など、約238名（会場125名、オンライン113名）が出席いたしました。来賓の黒沼一郎文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課長ほか堀裕行岐阜県健康福祉部長、本学獣医学科卒業生の竹中登一アステラス製薬株式会社 元代表取締役社長CEO及び原英彰岐阜薬科大学長の挨拶から始まり、矢部大介センター長による概要説明、わが国の医薬品・医療機器開発戦略の司令塔機能を担う田中一成内閣府健康・医療戦略推進本部事務局次長、ヒトとネコの腎臓病治療薬の創薬・実用化を目指す宮崎徹一般社団法人 AIM 医学研究所 代表理事・所長による基調講演および森崇応用生物科学部教授による講演が行われました。

今後は、「One Medicine」の視座のもと国際的にわが国が後れをとる医薬品開発の成功率を高めるだけでなく、「Sharing Medicine（人獣共通医療学）」という新たな学術領域の開拓を目指してまいります。



センターの概要を説明する矢部大介センター長

【メディア掲載】

掲載日	新聞社名	内容
2023/1/18	中日	ヒト、動物の創薬加速へ 岐阜大に医・獣・薬・工学一体拠点 ～ OneMedicineトランスレーショナルリサーチセンター センター長・医学研究科 矢部大介教授, 吉田和弘 学長 ～
2023/1/18	岐阜	人獣共通「創薬の種」 先端医療研究を加速 岐阜大が開発・育成センター開設 ～ OneMedicineトランスレーショナルリサーチセンター センター長・医学研究科 矢部大介 教授, 吉田和弘 学長 ～

環境再生保全機構「環境研究総合推進費」 令和5年度新規課題に採択

【概要】

岐阜大学、岐阜県水産研究所、岐阜県森林研究所及び国立環境研究所の共同研究チームによる申請課題『長良川流域における森・里・川の気候変動適応が中山間地域の生業の持続性とウェルビーイングに与える影響の研究』が、令和5年3月17日に令和5年度環境研究総合推進費に採択されました。

本課題は、世界農業遺産にも認定されている長良川中上流域を主な対象とし、①森林管理・中山間地農業が長良川システムと炭素循環に与える影響、②気候変動適応策としての河川環境管理・水産資源管理・持続可能な観光を支える科学的知見創出、③生態系の恵みに関わる生業の持続可能性とウェルビーイングに適応シナリオが与える影響の3つのサブテーマからなる研究プロジェクトであり、岐阜大学が岐阜県と共同設置・運営している「岐阜県気候変動適応センター」における共同研究事業としても位置付けられるものです。

なお、本研究プロジェクトの中心となる岐阜大学地域環境変動適応研究センターは、令和2年度から4年度まで環境研究総合推進費の支援を受け『水防災・農地・河川生態系・産業への複合的な気候変動影響と適応策の研究』に取り組んでおり、世界農業遺産「清流長良川の鮎」の対象地域を中心とした気候変動影響と適応策の共創を進めてきました。

新規採択された本課題は、これまでの取り組みにより創出・後押しされた森・里・川における適応策を効果的に運用するための科学的知見を、行政・研究者・地域との協働を基調として創出するものです。



実施体制: 岐阜大学・岐阜県森林研究所、岐阜県水産研究所・(国研)国立環境研究所の分担メンバーに加え、岐阜県-岐阜大学による気候変動適応センターの協働の体制を基盤とし、岐阜県里川振興課、岐阜県国際観光局、岐阜市、郡上市、さらに地域の協力者((一社)長良川カンパニー、NPO法人ORGAN、リバースケープLLP)等の協力を得て実施する。